


【授業科目】音楽療法 Music Therapy

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
武本 京子	1年次後期	選択	1	15	講義	あり		可
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対するフィードバック 方法	<p>授業概要/音楽療法の定義「音楽療法とは、音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」を受け、医療を学ぶ学生として何を考え、何を実践していかねばならないか、共に考える。同時に世界の名曲と作曲家を訪ねて、音楽のよろこび・音楽のたのしさを学ぶ。それらの音楽を医療域音楽と考えたとき、人の心と体にどのようにかかわってくるのか、音楽療法側面から考える。課題に対するフィードバック方法/提出された課題については講義内で解説する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け看護を主体的に学び、人間として自己の成長に努め、専門職としてのキャリアの基礎を形成することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽療法における一般的な知識を学ぶことができる。 2. 治療現場で役立つことができる知識を学ぶことができる。 3. 音楽の力について学び、音楽処方ができるようになる基礎を学ぶ。 							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>配布資料を読んで予習・復習すること (30分) 必要に応じて専門用語の意味などを調べ理解しておくこと (30分) 音楽の内容を深く聴くこと (1時間) 課題に対するプレゼンテーションの準備をすること (30分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合: 予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合: 予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合: 予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 音楽療法概論: 音楽療法における音楽の役割、音楽療法の対象と目的について考える。</p> <p>第2回 音楽療法の基礎知識①: 音楽の生理的・心理的作用について考える</p> <p>第3回 音楽療法の基礎知識②: 音楽の人体への効果</p> <p>第4回 音楽療法の基礎知識③: 能動的音楽療法と受動的音楽療法の方法 音楽を使用する場合の同質の原理、異質への転導、感動と自己訂正について考え、どのような音楽をどのような場合に供与すべきかを考える。</p> <p>第5回 音楽による社会への働きかけの実践報告。被災地や社会変動期における音楽の必要性から見る音楽の効用。音楽療法に携わるための各段階と音楽療法の活動方法</p> <p>第6回 音楽による心への問いかけの実践と応用① 音楽療法に携わるにあたり、必要な技術や資質について必要なこと "生活の質"・"生命の質"・"人生の質" "クオリティ・オブ・ライフ (Quality of Life = QOL) の重要性。</p> <p>第7回 音楽による心への問いかけの実践と応用② 実際の音楽を聴きながら音楽が心身にどういった変化を起こすのかを検証する 心へのアプローチの様々な音楽療法の方法</p> <p>第8回 音楽による心への問いかけの実践と応用③ 音楽処方箋を作ってみよう! 音楽処方箋とは? ポドルスキーの音楽処方</p>							全て 武本
評価方法 評価基準	<p>授業中の質疑応答 (40%) 及び提示される課題の提出 (60%) を合算し、評価する。 第8回の授業後、自分で音楽処方箋を作り、音楽によって、どのような人のどのような部分の改善に音楽を使用するかを考える。音楽療法で使用したい音楽作品を選別し、音楽が何を表現しているかを考える。楽曲と使用目的と方法をまとめ、課題提出し、それをもとに評価する</p>							
教科書	 <p>YouTube のサイトの音楽参照 武本京子 Kyoko Takemoto Official</p>				参考書等	<p>*資料を授業時に配布する。 *授業内で適宜紹介していく。</p>		
学生へのメッセージ	<p>音楽の内面に含まれるメッセージを深く聞き取り。感じ取り、考え、音楽の力を見つけよう!</p>							